2007年度春季日本語教育実習報告書

（名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻）

目次

第１章　目的と概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．１　目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．２　概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第２章　実習内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第３章　実習授業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

第１章　目的と概要

１．１　目的

春季教育実習の目的は、実際に日本語教育における教室活動を体験すると同時に、日本語教育の現場を客観的に観察すること、さらに、教授法だけでなく事前準備や教室でのティーチャートークなど、日本語教育に関わる様々な項目を学び、教室で生じる問題点を発見し、自分なりの考え方を形成することである。また、実習生は自分の授業だけではなく、他の実習生または経験を積んだ TA の授業を積極的に見学し、各自の成長を目指す。

１．２　概要

本節では、春季実習における日本語講座の概要を述べる。

・名称：名古屋大学留学生センター2007 年度春季集中日本語講座

・　開講期間：2007 年 2 月 13 日（火）～2007 年 2 月 28 日（水）

・　実習クラス：初級

・対象：名古屋大学に在籍する外国人留学生

・学習者の出身国：中国(2)、ベトナム(1)、ラオス(1)、メキシコ(1)、オーストリア(1)、ポーランド(1)、ブラジル(1)、アメリカ(1)

・登録学習者数：9 人

・使用教科書：A Course in Modern Japanese Vol.2（名古屋大学日本語教育研究グループ篇 名古屋大学出版会）

（担当：陳）

第２章　実習内容

春季実習は名古屋大学留学生センターの「春季集中日本語講座」のうちの「初級Ⅱ」の１クラスを実習生と Teaching Assistant（以下 TA）が担当するという形で行われた。実習生（12 名）は TA（4 名）と組み（各 TA に実習生が 3 名ずつ割り振られた）、1 日 3 時限（90 分×3）の授業のうち、実習生 2 名はそれぞれ半時限（45 分）を、残り 2 時限（90 分×2）を TA が担当する。期間中、各実習生はその日の最初と最後の授業を担当しないことが原則とされた。また、実習生は TA、或いは、他の実習生の授業を見学することが義務付けられている。

チームの方針、または、担当する課の学習項目や内容は各チームに任せるという形を取っている。全体の時間割は次の表 1 に示し、実習生が担当した課と学習項目は次の表 2 に示す。（なお、実習生それぞれが行った授業の内容は次章で提示する。）

表１　留学生センター春季集中日本語講座「初級 IIb（SJ102b）」　コース時間割

	日　付	1 限（9：00－10：30）	2 限（10：45－12：15）	3 限（13：15－14：45）
1	2 月 13 日（火）	【オリエンテーション】 ＊9：00－10：00	【CMJ：11 課】 ＊10：10－12：10 前に・後で・とき	【CMJ：11 課】 ～こと、～ながら、～ば
2	2 月 14 日（水）	【CMJ：11 課】 ～ばいいです ～なければいけません	【CMJ：12 課】 話の切り出し方 ～て（理由） ～について ～ために（目的）	【CMJ：12 課】 ～たことがある／～ることがある、～のことなんですが／～のことで、～たらどうですか／～たらいいですか
3	2 月 15 日（木）	【CMJ：12 課】 可能形 アポイント・相談	【CMJ：13 課】 名詞／形容動詞＋になる 形容詞＋くなる 動詞＋ようになる	【CMJ：13 課】 ～やすい／～にくい 動詞＋ようにする
4	2 月 16 日（金）	【CMJ：13 課】 ～と（条件）、比較構文（～より～／～ほど～）	【CMJ：13 課】 比較構文（～ほど～ない） 最上級文	【CMJ：14 課】 N という N 名詞修飾
5	2 月 19 日（月）	【CMJ：14 課】 ～ないでください	【CMJ：14 課】 ～ことになる／ことにす	【CMJ：14 課】 ～てしまう

		もう・まだ	る、つもり	総合練習
6	2月20日（火）	【CMJ：15課】 受身（1）：直接受身 受身（2）：間接受身	【CMJ：15課】 ～てある ～てから	【CMJ：15課】 ～ばよかった 総合練習 活動：インフォーマルスピーチ（1）
7	2月21日（水）	【CMJ：16課】 尊敬語、謙譲語	【CMJ：16課】 やりもらいの尊敬 訪問の流れ	【CMJ：16課】 そうだ（伝聞・様態）、～し～、～てくる 活動：訪問の会話
8	2月22日（木）	【CMJ：17課】 ～てくれる・もらう ～てあげる	【CMJ：17課】 Nによる 普通体会話	【CMJ：17課】 会話 応用練習
9	2月23日（金）	【CMJ：17課】 のに、意向形	【CMJ：18課】 ～らしい（伝聞） って（伝聞・引用）	【CMJ：18課】 ～ようだ（様態） XのようなY
10	2月26日（月）	【CMJ：18課】 ～ても（逆接） 見える・聞こえる 総合練習	【CMJ：19課】 使役・使役受身	【CMJ：19課】 間接疑問 ～わけにはいかない
11	2月27日（火）	【CMJ：19課】 ～てくる／ていく ～始める／続ける／終わる、～合う	【CMJ：19課】 チームアクティビティ 活動：習字	【CMJ：20課】 ディスカッションについて、～んじゃないでしょうか、～るところ／～たところ／～ているところ
12	2月28日（水）	【CMJ：20課】 ～ように言う／ないように言う、禁止・命令	【CMJ：20課】 チームアクティビティ 活動：ディスカッション	【総合練習】 活動：個人発表・お茶会

表2　春季実習　実習生担当学習項目

チーム	実習生	日付	課	学習項目
1	章　玉琳	2月13日(火)	11	～こと、～ながら
		2月26日(月)	18	総合練習

	古賀恵美	2 月 14 日(水)	11	～なければいけません
		2 月 20 日(火)	15	～ばよかった、インフォーマルスピーチ（1）
	セート・ラジャディーブ	2 月 20 日(火)	15	受身（2）：間接受身
		2 月 23 日(金)	18	～らしい（伝聞）
2	坂本麻裕子	2 月 14 日(水)	12	～たことがある／～ることがある、～のことなんですが／～のことで
		2 月 21 日(水)	16	訪問の流れ
	テイラー・レベッカ	2 月 21 日(水)	16	尊敬語（Illegular・れる／られる・練習）
		2 月 28 日(水)	20	禁止・命令
	陳　暁貞	2 月 15 日(木)	12	可能形
		2 月 27 日(火)	20	～るところ／～たところ／～ているところ
3	元　春英	2 月 15 日(木)	13	～やすい／～にくい
		2 月 27 日(火)	19	～始める／続ける／終わる、～合う
	サウェットアイヤラム・テーウィット	2 月 16 日(金)	13	比較構文（～より～／～ほど～）
		2 月 26 日(月)	19	間接疑問
	魏　志珍	2 月 16 日(金)	13	比較構文：最上級文
		2 月 26 日(月)	19	使役構文
4	野田大志	2 月 16 日(金)	14	名詞修飾
		2 月 23 日(金)	17	意向形
	ディルルクシ・ラトナーヤカ	2 月 19 日(月)	14	～ことになる／～ことにする
		2 月 22 日(木)	17	～てあげる
	初　恵珠	2 月 19 日(月)	14	～てしまう
		2 月 22 日(木)	17	普通体会話

＊配列はチームごとで、初回の授業の早い順番で並べてある。

（担当：魏）

第３章　実習授業報告

本章では、実習生ごとの授業内容を以下に提示する。（なお、提示の順序は前章の表 2 に従う。）

実習生氏名：章玉琳

実習日：２月 13 日（火）
〈授業内容：11 課〉 **学習項目：「私の趣味は～」「こと」** **学習目標：趣味に関する語彙を身につけ、初対面等の紹介場面でうまく使えるようになる。** **授業構成：** 1. **簡単な自己紹介（絵カード）** 2. **導入（ホワイトボードに形式【私の趣味は○○ことです】を提示）** 3. **趣味に使う語彙を紹介（絵カード）** 4. **「こと」の説明** 5. **ドリル練習** **ビンゴゲーム**
実習日：２月 26 日（月）
〈授業内容：18 課〉 **学習項目：総合練習** **（L18 の「らしい」「○○のような△△」「って」；L16 の「そうだ」；L12 の「たことがある」）** **授業構成：** 1. **導入：「そうだ、らしい、ようだ」の復習** 2. **聞き取り練習として、ゲストを招き、ゲストとの会話を聞かせる(2 回)** **（Q&A の形で、内容確認と文法確認）** 3. **アクティビティ** **（情報カード作り　→インタービュー　→発表；トピック：お国/ふるさと、有名なもの）**
〈授業の反省〉 **春季実習を通し現場における日本語教育のあり方を垣間見ることができ、また、自分自身に教師として不足している点（例えば、日本語教師としての心構えや授業のためにどういう準備をすれば良いかなど）についていろいろ気づくことができた。ここで今後最も注意すべき点のみを取り上げ述べる。** **Ⅰ説明**

導入と文法説明を経て練習に入ると、ペアワークやインタービュー活動、ゲームなど、いかなる活動でも、タスクの説明が何より肝心だと痛感した。説明が不明瞭で理解が得られなかったらタスクが思い通りに進まないし、より良く理解してもらうために説明がくどくなるあげく時間をオーバーしてしまう。実習ではこの両方の場合をいずれも経験した。

実習をきっかけに、今後少なくとも以下の点に気をつけ、タスクを過不足なく説明できるようになりたい。

①ルール説明のタイミング　　②時間のコントロール

③用意した物の示し方、使い方　　④注目のさせ方

なお、言葉の説明をせず、何らかの道具や手段を使って、学生に内省してもらう方法を探りたい。例えば、TA は「～させられる」という項目を教える際に、絵カード上の主体が誰なのかを黄色いマグネットで示すことによって、説明せずにすませることをされたが、非常に参考になった。

Ⅱ学習者視点

ドリル練習の場合、特に総合練習のアクティビティを考えるとき、すべての項目を取り入れようとした。しかし、全部の項目をカバーしようというのは、今の自分にとってまだ困難なことで、無理をして組み合わせたとしてもやはり不自然なところがあった。ここで、学習者への配慮不足が目立った。学習者の視点に立ち、一番使えそうなものを取り入れれば良いと授業の後反省した。

Ⅲ教案

経験不足で緊張しすぎたせいか、実習のとき、教案に支配される傾向が見られた。もっと気楽に、教案に支配されるのではなく、臨機応変に授業を行えるようになることも今後の課題である。

実習生氏名：古賀恵美

実習日：２月１４日（水）
〈授業内容：9 課〉 学習項目：なければなりません、なければいけません（なくちゃ、なきゃ） 授業構成： Ⅰ．ウォーミングアップ，　Ⅱ．導入，　Ⅲ．学習項目の提示・この時間の学習目標確認 Ⅳ．機械的ドリル ・Non-polite negative form ・Non-polite negative form＋なければなりません Ⅴ．コンテクストの中の練習（個人化・文脈化） ・いろいろな場面を想定した文作り ・Ｑ＆Ａ Q:　Ｖなければなりませんか A:　⇒はい・・／いいえ・・なくてもいいです Ⅵ．コミュニケーション重視の活動（誘いの断り）　　＊談話練習を含む Ⅶ．まとめ ～なくちゃ、～なきゃ　についての紹介
実習日：２月２０日（火）
〈授業内容：15 課〉 学習項目： Informal Speech 授業構成： Ⅰ．ウォーミングアップ，導入 polite speech と　Informal Speech の会話を二つ聞かせて、違いを感じ取らせる。 Ⅱ．目標確認，　Ⅲ．Polite speech と Informal Speech の使用場面と話す相手の確認 Ⅳ．Informal Speech の作り方の説明（動詞）， Ⅴ．ドリル練習・・・Polite speech から Informal Speech へ変換練習 Ⅵ．Informal Speech の作り方（形容詞、名詞） Ⅶ．ドリル練習・・・ Polite speech から Informal Speech へ変換練習 Ⅷ．春休みのプランについて・・・ペアで会話作り、２組発表 Ⅸ．まとめ
〈授業の反省〉 教案と実際の授業の比較をすると、導入や機械的なドリルなどの時間配分や一部の練習

を無意識に省くなど内容の違いが見られた。これは計画時に無理な時間配分を立案している、教案をもとにシミュレーションができていないなどが理由として考えられる。

導入方法について、既習の学習項目と関連づけて導入を行いたかったが、スムーズにいかなかった。教科書に提示されている文法用語が学習者にとって馴染みのあるものではない、あるいは学習者の学習項目の定着度によっては、既習項目との関連づけが必ずしも理解の助けにならないなどが理由として考えられる。学習者の反応を見て、英語を使って理解を促す、例文を多く提示するなどの工夫が必要であった。今回のように学習者のレベルが予想できず、日本語力に個人差がある場合は計画時に導入方法や練習方法をいくつか準備しておくなどが必要であろう。

実習を振り返り、自分の教授法について、特定の学習者に指名が偏る、ほめや誤用訂正のバリエーションが少ない、授業にメリハリがない、余裕がないときは学習者より授業の進め方に注意が向きがちである、十分なフィードバックを与えていないことなどが分かった。今後の教授活動ではこれらの点を意識化し改善していきたいと思う。

今回の実習には、多数の TA、実習生が関わっており、教案作成、模擬授業などグループで作業を行った。準備・実習期間中、他のグループで何が行われているかを把握する環境になかったこと、春季集中コースの学習目標が不明確であったことなど、プログラム全体が一貫性のないものに感じられた。また、限られた実習時間内では、学習のニーズ、興味や関心のあることなど学習者個人の情報を得るのが困難であり、その点で授業が進めにくかった。今回のように複数の教師が関わる場合は、学習者の様子や学習内容についての申し送りを行ったり、グループ間での連絡を密に取るなど、横のつながりに留意すべきであると思われる。また日頃から学習者の様子を観察する、休憩時に学習者と雑談をするなど学習者との係わりがクラス活動や雰囲気作りに影響を及ぼすことが分かった。

最後に実習生の授業に辛抱強く参加し、非常に協力的であった学習者の方々に心からお礼を申し上げたい。

実習生氏名：坂本麻裕子

実習日：２月 14 日（水）
〈授業内容：12 課〉 ・導入項目：「～たことがあります」（経験）、「一度もありません」 ① 導入：T と S の会話から、文型を導入。 ② 練習：動詞カードを見せ、「た形＋ことがあります」を作る練習。 ③ 練習：絵カードを見せ、「～たことがありますか」と質問、クラス全体で情報交換。 ④ 応用練習：カードを使ったペアワーク。導入項目と「どうでしたか、いつ、誰と」など既習項目を使い、長く会話をする。
実習日：２月 21 日（水）
〈授業内容：16 課〉 ・導入項目：日本人の先生の家を訪問する。既習の敬語を応用。 ① 導入：T（留学生役）と TA（先生役）で、寸劇をする。寸劇の中でポイントとなる箇所では立ち止まり、S に問いかけることで導入。 ② 練習：プリント配布。会話や言い方を確認。 ③ 応用練習：二人一組で、それぞれの役を練習する。 ④ 発表：前へ出て発表してもらう。
〈授業の反省〉 2 月 14 日の実習では、導入と形の練習を終えてから、色々な絵カードを見せて「～したことがあるか」を聞いていく練習をしました。授業の最後にカードを引いてお互いの経験を聞く会話練習を設けたので、その前段階として、ここでは絵を教師が見せて学習者同士で聞いてもらうことにしました。教師側は、1,2 ターンの短い会話を想定していました。しかし、学習者は教師が想定していた以上に会話を膨らませ始めました。「～したことがありますか、どこで、いつ、誰と」というように、自然に沸き起こる疑問を聞き始めたのです。また、更に「～したことがありません」の場合でも、「どうしてしませんか？」と学習者は会話を続けました。経験がないという返答の場合は、そこで会話が終わると考えていたのでとても驚きました。聞かれた学習者は、「おいしくなさそう」「どこにあるかわかりません。」などと答えたのです。経験がない場合の会話も、それぞれの個性を知ることが出来る情報の共有になり、非常に面白い会話となりました。ここで学んだことは、以下の二つのことです。一つは、教師は会話を柔軟に考えることが大切だということです。実際のコミュニケーションでは、経験していない場合でも会話が続くことがあります。それを教師側

が想定していなかった原因は、準備の段階で文型や教科書の中の日本語に囚われすぎていたからだと思います。もう一つは、学習者のコミュニケーション能力と個性を生かした場面練習や会話練習をすることが大切だということです。実際のコミュニケーションに近づけることができた場合、学習者は充実感を持って練習してくれるのだということを強く実感しました。

2 月 21 日の実習では、訪問会話のロールプレイをしました。文型を導入する授業では導入したい文型が明確にあります。しかし、ロールプレイの場合、これまでの文型が総合的に使用され、また、全体の流れや場面も含めて理解する必要があります。今回、初めてロールプレイを授業で行ったのですが、まとまりのない授業となってしまいました。原因として、ロールプレイのどこに重点が置かれているのかが曖昧であったこと（例えば、文型を暗記させたいのか、応用させたいのか、文化的な作法をきっちり教えたいのか）が考えられます。また、ロールプレイ全体の目標が不明確であったため、ペアごとに到達点がバラバラになってしまいました。ロールプレイを行う場合、教師はクラスのレベルや学習者の個性に合わせて目標を明確に設定することが重要だということを学びました。

どちらの授業においても、学習者の皆さんの想像力やユーモアに助けられ、教師側が多くのことに気付かされました。1 回目と 2 回目の担当授業はやり方が少し違いましたが、例えどのような授業方法であったとしても、学習者を授業に巻き込んでいくことや学習者自身の能力･想像力を授業に生かすことが授業を成功させる大きな要素だと言えると思います。そのためにも、実習では TA から客観的なアドバイスをもらいながら協力しあい、教師側は柔軟に授業を組んで準備をする必要があると改めて感じました。

実習生氏名：テイラー・レベッカ

実習日：２月２１日（水）
〈授業内容：１６課〉 学習項目：尊敬語 学習目標：尊敬語での質問を理解できるようになり、丁寧語で答えられるようになること。 授業構成：授業の前半では尊敬語での質問を聞かせるリスニングの活動を二つ行った。一つ目では、辞書の dictionary form をプリントにあるリストから選ばせ、二つ目では、丁寧語での答えをを選ばせた。授業の後半では、会話練習を行った。学習者にペアになってもらい、一人が尊敬語での質問を読みあげ、もう一人は丁寧語で答えを作る練習であった。最後に、クラス全員で話し合った。内容は「話せる外国語」、「行ったことのある国」、「母国での仕事」の話題であったが、教師が様々な尊敬語の表現を用い質問をし、学習者に丁寧語で答えてもらった。
実習日：２月２８日（水）
〈授業内容：２０課〉 学習項目：命令形（「～なさい」、「V（命令形）と言われた」） 学習目標： ①「～なさい」の意味と使い方を学ぶこと。②「V（命令形）と言われた」における「V（命令形）」は「～てはいけません」、「～ては駄目だよ」、「～てください」、「～なさい」などの代わりに使う表現であることを学び、「V（命令形）と言われた」を言えるようになる。 授業構成：授業の前半ではリスニングの活動を行った。リスニングの内容は、高校生を叱る教師とお母さんの言葉である。教師の言葉は「～てはいけません」、「～てください」などを含む丁寧体で、お母さんの言葉は「～ては駄目だよ」、「～なさい」などを含む普通体であった。学習者に二つの会話を聞かせ、内容を発表してもらい板書した。「～なさい」の使用場面を説明してから、「V（命令形）と言われた」を導入した。その後、高校生が何を言われたかを「V（命令形）と言われた」という形で発表してもらった。最後に、自分が怒られた話をペアで話させ、発表してもらった。
〈授業の反省〉 一回目の授業の学習項目であった尊敬語に関しては、初級の留学生にとって、言えるようになることよりも、聞いて理解することの方が必要ではないかと考え、リスニングの活動に挑戦することにした。リスニング教材の作成にあたって、何人かの日本語母語話者の発話を録音したが、このような教材では、様々な日本語母語話者の発話を学習者に聞かせることができるので、将来、自分自身が母国で日本語を教える際も、積極的に取り入れたい。しかし、今回の実習の二回目の授業では、学習項目ではないものをリスニングの対象にし

たため、リスニング活動の効果が多少落ちたのではないかと思われる。また、各表現の使用する場面が学習者に理解できるように、場面設定を心がけたが、二回目の授業では、「叱られる高校生」を場面にしたため、留学生にとって学習項目が使われる可能性の高い場面を導入することには成功していない。

リスニング活動の次に応用練習が続くことは二つの授業に共通していたが、学習者が応用練習で使用した表現の範囲が多少狭かったように思われる。ドリル練習をしないで、直接応用練習をしたのは、学習者にとって学習項目がまったく新しいものではなく、形を練習する必要がないと判断したためであったが、「ドリル練習は面白くない」という教師自身のビリーフにも原因があったと考えられる。このビリーフは、英語教育の経験で生まれたと思われるが、今回の教育実習を通して、ドリル練習の必要性を実感した。応用練習でより自由に学習項目が使えるように、場面が学習者に伝わりやすく、かつ、面白いドリル練習を作成することは今後の課題としなければならない。

教育実習では、担当する授業の数が少なく、各授業が 45 分と短いので、英語教師などの仕事と比べて準備する時間を長く取ることができた。そのため、リスニング教材を作成し、板書する言葉の配分を立案の段階であらかじめ考えておくことができた。これが授業の実践をスムーズに行えたことにつながったと思われる。しかし、コースデザインに関われなかったので、夏季教育実習に向けて多少不安が残った。

実習生氏名：陳暁貞

実習日：２月 15 日（木）
〈授業内容：12 課〉 学習項目：「可能形」 授業構成： ウォーミングアップ 「昨日はどんな日でしたか？」「バレンタインデーでした」という話から、恋人同士の間でどうやって連絡を取るかについて尋ねる。 導入 携帯電話の機能から話せます・E メールできます・どこでも連絡が取れますと可能形 potential を導入する 機械的ドリル １.GroupⅠverb、GroupⅡverb、Irregular verb 2.それぞれの変形を言わせる 3.否定形を練習させる 4.「ことができる」を導入する 会話練習 ・ 日本の食べ物は大丈夫ですか？ ・ 何かスポーツができますか？ （会話を作る） A：～さんはテニスができますか？ B：はい、できます。／いいえ、できません。 ペア練習 『テーマ』他の国のことを聞きます。 ①「～国では何歳から結婚できますか？/お酒が飲めますか/たばこが吸えますか？」 ②「～国では電車で携帯電話が使えますか？」 ③「～国では授業中にドリンクが飲めますか/弁当が食べられますか」など
実習日：２月 27 日（火）
〈授業内容：20 課〉 〈授業内容：20 課〉 学習項目：「～るところ、～ているところ、～たところ」 授業構成： ウォーミングアップ

・　今どこに住んでいますか？（場所 Place）

・　彼（恋人かクラスメートの誰か）のどんなところが好きですか？（部分、特徴）which part

（ここまでは既習）

導入

今日も「ところ」について勉強します。

（「Vところ：X is going to do」；

「Vているところ：X　is doing just now」；

「Vたところ：X has just finished…」の紙を貼ります）

教科書のｐ291 の例を参考にして、形や意味を確認します。

機械的ドリル：「た形」や「ている形」の練習

会話練習

・「誘い場面」と「依頼場面」の流れを提示します。

もし、今日ペンケースを忘れた場合は、どうしますか？

(会話を作る)

A：B さん、ちょっと～貸してもらえませんか？

B：すみませんが、今～ているところなんです。C さんに聞いてみませんか？

B：C さん、ちょっと～を貸してもらえませんか？

C：いいですよ。今ちょうど～たところです。どうぞ。

〈授業の反省〉

① 導入の部分は長すぎて授業全体の時間配布から見たらバランスがよくない。

② 誤用が出たとき、考えさせる時間を与えずに正解を言ってしまった傾向が見られる。

③ あまりできてない学習者に気を配ったほうがいいと思ったのに、無意識に特定の学習者に気が引かれた。

③ 自分が漢字圏の人で非漢字圏の学習者のニーズや難所が分からない。つい漢字で書いたりする。

④ 肯定的フィードバックが少ないので、学習者の意欲を高めさせない。

⑤ 学習者同士の会話と活動が少ない。

実習生氏名：元春英

実習日：2 月 15 日（木）
＜授業内容：13 課＞ **・学習項目「～始める／～続ける／～終わる」** **・導入（意味・形式）、ドリル練習、応用練習** **一段動詞、不規則動詞、五段動詞の変換練習を行った。形式練習は使用場面を考慮した。活動は絵を見せ、「～始める／～続ける／～終わる」を使って学習者に言わせた。応用練習にはスケジュールのつくりを行った。最後に自分が書いたスケジュールを発表させた。**
実習日：2 月 27 日（火）
＜授業内容：19 課＞ **・ 学習項目 「～やすい／～にくい」** **・ 導入（意味・形式）、ドリル練習、応用練習** **絵カードや文字カードを使用し、学習項目を導入した。ドリル練習は教師の質問に答えられるように行った。応用練習はシートを配り、「～やすい／～にくい」を使い、自分の国と日本を比べてみるタスクを実行した。**
＜授業の反省＞ **春季の 2 回目の授業を通し、一番大きな収穫と思われるのは初めて母語が色々な学習者を対象に日本語を教えたことである。しかし、経験が浅い自分にとっては多くの問題も見つかった。** **・ 教室活動で学習者とコミュニケーションを行うときに、自分の意図がはっきり伝わっていない表現が多いこと。学生がすぐ理解できるように、簡単な日本語で説明したほうがいいと感じられる。** **・ 文法項目を導入する際に、文法項目の使用場面と機能をよく考えていなかったこと。** **文法項目を与えることのみ考え、学習者の身近に行われる使用場面を注視しなかった。教案作りのとき、コーパスなどを調べ、日本人がよく使用している場面を観察し、どのような状況で使うのか、どのような状況で使わないのかをもっと考慮すべきであることが分かった。** **・ ドリル練習や応用練習を行うときに、タスクが失敗したため、教室活動が有効的に進まなかったこと。できる限り、多くのタスクを用意しておき、一つのタスクが失敗すると、次のタスクにすぐ移るようにする。** **・ 授業の流れについての時間をうまくコントロールできなかったため、教室活動の時間がいつもぎりぎりだったこと。時間をもうすこし緊密に配分したほうが効果的である。** **・ フィードバックのために行われるあいづちが単一であること。**

実習生氏名：サウェットアイヤラム・テーウィット

実習日：２月 16 日（金）
〈授業内容：14 課〉 学習項目：　Comparative sentences 授業構成： 形式　　：N1 のほうが N2 より～。 Verb1　ほうが Verb2 より～。 ADJ い　ほうが ADJ いより～。 ADJ な　　ADJ (No な) 学習目標：比較表現を身につける Ⅰ．導入 Ⅱ．文法説明と板書 Ⅲ．ドリル練習 Ⅳ．タスク 1 組 2 人のペアで教師が準備したプリントを使い、説明した。
実習日：２月 26 日（月）
〈授業内容：19 課〉 学習項目：　Quoted questions with question words Quoted Yes-No questions（例：明日雨が降るかどうか分かりません） 授業構成： 形式　　：イ形容詞・動詞の non-polite form か（どうか）、～。 ナ形容詞 (No だ) 名詞　(No だ) 学習目標：場面によって Quoted questions か普通の質問かを選んで、使い分けができる Ⅰ．導入（文型カードの提示） Ⅱ．文法説明と板書 Ⅲ．ドリル練習（絵カード使用） Ⅳ．タスク 「友達の国について聞く」と「有名人にインタビュー」というタスクを使用した。「友達の国について聞く」というタスクは、1 組 2 人のペアで質問し合ったタスクである。「有名人にインタビュー」というタスクは、一人の学習者を有名人に設定し、他の学習者に Quoted questions を使って質問するように指示した。

〈授業の反省〉

春季実習で行った授業では、実習生が時間をうまく管理することが出来ないことが多かった。1回目では学習者に活動を行なわずに導入のところで終わってしまった。2回目の時には、改善して 1 回目ほどたくさん喋らなかったが、まだ多かったようである。但し、45分程度使った。活動も計画した通りに 2 つをさせることができた。しかし、友達に国のことを聞くというタスクを学生にさせたが、発表させる時間がなかったことがあった。原因は教師が学習者全員に一つの質問をしたこと、教師が中心的にしゃべり続けていたことにあると考えられる。その他、「初級レベルの学習者なので、まだ発話ができない或いはしたくないはずだ。」と教師は思い込んだため、あまり発話をさせなかった。発話させたとしても、細かいところに注意してしまったことがあった。しかし、2回目の授業において、残りの時間に習った文型を学生に使わせ、教師は発話をあまりしないようやってみた。その結果、完全に正しいとは言えないが、学生は習ったことを一生懸命使おうとしていた。学習者をもっと信じなければいけないと深く反省している。

また、提示する例がちょうどいいが、練習量が少ないという準備不足があった。また、時々教師の指示があいまい、或いは全部言っていないことがあった。そして、文法の説明にもミスが見られた。事前に様々な事態を想定して、十分な準備をした。しかしながら、緊張したあまり、教師が必要以上にしゃべり続けた。そのせいで、準備したものを使わなかったり、あいまいな指示を出したり、文法の説明を間違えて教えたりしてしまった。教案を作成して練習していたが、まだ足りなかったことを認識するとともに、改めて深く反省した。

さらに、普段は「実際の使用を想定して、文法を説明したり、タスクを練習したりする」という視点から教えるべきであると考えていた。しかし、教師さえ十分理解できていない文法項目（Quoted questions）があった。この文法項目をいつ使用するのか、悩んだあげく、「第三者のことについて聞く時」と、「インタビューの時に」使用するだろうと考えて、そのような活動をさせた。しかし、Quoted questions を使用しなければならない文脈、或いはどんな時に使うのかについては不明確なままクラスが終わってしまった。この点に関しても改めて深く反省した。

実習生氏名：魏志珍

実習日：2 月 16 日（金）
〈授業内容：13 課〉 学習項目：比較構文「いちばん」 学習目標：比較構文全体を理解し、日常会話でも使えるようになる。 Ⅰ.導入（文字カード、絵カード使用） Ⅱ.文法説明 Ⅲ.ドリル練習（文型カード、絵カード） Ⅳ.タスク：①「アパート」の絵を使って、一番住みたいのは何階ですかと質問をする。 ②デパートの館内案内図を利用して、学習者 A→学習者 B、学習者 B→学習者 C のような形で練習させる。
実習日：2 月 26 日（月）
〈授業内容：19 課〉 学習項目：使役構文 学習目標：「使役構文」の用法と使い方を学ぶ。 Ⅰ.導入：場面を設定した上で見学者に協力してもらって、実例（見学者に指示を与え、見学者は指示通りに動作をやる）を提示し、文法項目を導入。（文字カード、絵カード使用） Ⅱ.文法説明（文型カードと板書） Ⅲ.ドリル練習（文字カード、絵カード） Ⅳ.タスク： 【コンテクストの中の練習】 ①もしロボットがあったら、何をさせますか？というトピックについて全員で話し合う。 ②もし、もう一人の自分がいたら、何をさせますか？というトピックについて全員で話し合う（学習者に自分の言いたいことを言わせる練習）。 【コミュニケーション活動】 「あなたなら、この人たちに何をさせますか？」という話題について 1 組 2 人のペアで話し合う（絵が付いているプリント使用）。
〈授業の反省〉 今回の春季実習は一度も教壇に立った経験のない私にとって、教師としての初体験であり、かなり貴重な経験でもある。2 回の授業を通して反省すべき点は、次のように取り上げられる。 1）学習者の発話量： 学習者の発話量は少なかった。教師である実習生が一方的に話し、学習者はそれを受身で聞

いているという時間が多かった。学習者に十分な発話権を与えることが必要であると思う。また、授業中で、よく発言する学習者は一部しかいなかったため、もっと全員が発言したくなるような場面／タスクを選んだほうが良いではないかと反省している。

2）学習者へのフィードバック：

授業全体を通しては、フィードバックの少なさが目立った。授業内容以外の（学習者の）の発言をよく聞き逃して、せっかく学習者が面白い発言をしたものの、教師はそれをうまく拾えず、フィードバックもせずに次に移ってしまうことが多かった。また、フィードバックはうまくできなくて「いいですね」「そうですか」しか与えられず、もっと学習者に役立つようなフィードバックを行う必要があることが反省すべき点である。

3）実際の運用：

ある項目についてどんな場面で使えるのか、誰に対して使えるのかということは、教師が常に考えなくてはならない。普段は学んでいた教授法の理論を実際の授業にも取り入れるべきであると考えていたが、実際の授業では練習のための練習、または活動のための活動を行うことが多かった。「練習の目的は何」「活動の目的は何」と教案を考えるとき、まず頭に入れておかないといけない。活動のための活動ではなく、○○を練習させるためにこのような活動が必要というふうに考えるべきである。

これから、自身の問題点を見つめ、自分の基礎能力をさらに磨き、もっといい授業ができるように改善していきたい。

実習生氏名：野田大志

実習日：２月 16 日（金）
〈授業内容：14 課〉 ・CMJ の L14 の「名詞修飾」について、運用能力を向上させるべく復習を行うことを目標とした。 ＜指導内容＞ ・学習者の持っている持ち物（教科書、筆箱、バッグなど）を指差して「これは○○です。これは、～～さんが買いましたか？」と質問し、学習者が答えたら「これは、～～さんが買った○○です。」と発話し、板書した。これを異なる学習者（異なる持ち物）を対象として２、３度行い、名詞修飾の形式を導入した。 ・イラストを掲載したプリントを配布し、そのイラストに描かれている事柄を名詞修飾を使って答えさせる練習をした。（ex.これは<u>ナロンさんが作ったサンドウィッチ</u>です。←下線部の形式が変わる。それ以外の形式は変わらない。） ・次に、教科書に掲載されている問題（p113 練習 2 の b の 1～7）を使用して、名詞修飾を使った文を発話させる練習をした。（ex.<u>ナロンさんが作ったサンドウィッチ</u>は<u>おいしい</u>です。←下線部の形式が変わる。それ以外の形式は変わらない。） ・次に、教科書に掲載されている問題（p114 練習 2 の c の 1～7）を使用して、名詞修飾を使った文を発話させる練習をした。（ex.<u>ルインさん</u>は<u>ナロンさんが作ったサンドウィッチ</u>を<u>食べ</u>ました。←下線部の形式が変わる。それ以外の形式は変わらない。） ・学習者を２つのグループ（A と B）に分け、それぞれのグループにイラストを 10 枚ずつ配る。それぞれ同一のイラストが描いてあるが、A グループのイラストには描かれている人の名前が書いてあり、B グループのイラストには名前は書いていない。B グループの人は順番に A グループの内の一人を自由に指名し、名詞修飾を使ってあるイラストに描かれた人が誰かを質問し、指名された A グループの内の一人は名詞修飾を使ってそれに答える。（ex.「○○さん、帽子をかぶっている人は誰ですか？」「帽子をかぶっている人は××さんです。」）この活動を途中で A グループと B グループの役割を交代して行った。
実習日：２月 23 日（金）
〈授業内容：17 課〉 ・CMJ の L17 の「意向形」について、運用能力を向上させるべく復習を行うことを目標とした。 ＜指導内容＞ ・意向形の作り方のルールを提示し、変換練習を復習として行った。 ・「意向形＋と思います」の形式を使用した会話の練習を行った。（学習者二人が互いに

今度の日曜日の予定を質問し合う。予め用意した語を使って文を作る練習。）
・意向形を使用して学習者自身の土曜の予定について教え合う活動を行った。
・イラストを見て、それをヒントに意向形を使った会話を構成し発話する練習を行った。（片方の学習者が明日ある活動を一緒にするように誘い、片方の学習者がそれに対して異なる予定があることを理由に断る、という流れ）
・意向形を使用して、学習者自身が帰国後何をしようと思っているか（日常生活においてしたいことや将来の夢など）を話す練習を行った。

〈授業の反省〉

春季実習では、名詞修飾と意向形という二つの文法項目に関してそれぞれ教案を考え、二度の授業を行った。

一回目の授業（名詞修飾）に関しては、名詞修飾という形で表現できるパターンが複数あるため、その中でどのようなパターンを指導すべきか（どのパターンが最も使用頻度が高いか）という点を考慮した上で、用いられやすい文脈を提示し、学習者が名詞修飾を使った発話ができるような練習を（会話練習も含めて）行った。実際の現場に立っていることを想定し、例えば毎回の授業で自身の能力の中でどの程度の準備ができるか、ということを予想しながら現実味のある教案を練ったが、結果的にそのことが練習のバリエーションの狭さを引き起こしてしまうことになってしまったという印象がある。また、実習の授業では、指導した形式以外の名詞修飾のパターンも使用することができるのか、という質問を学習者から受け、それはアスペクトも関わる問題で、学習者の質問の意図は分かり、それに対する答えも自身では把握していたものの、それを初級レベルの学習者に分かるようなティーチャートークで分かりやすく説明することができなかった。このことから、授業の前段階で文法項目を掘り下げて理解すると同時に、それをいかに分かりやすい平易な表現で過不足なく説明するか、という点についてもより考察を深めるべきであるということを感じさせられた。

二回目の授業（意向形）に関しては、一回目と同様、学習者がより使いやすい意向形のパターンや文脈を設定し、それに基づいた練習を考え実践したが、学習者はそれは予想以上に早い段階で習得し、実際はさらに応用的な練習も可能であったと感じた。また、設定した文脈や場面自体も、その規定が緩かったために、会話練習のような場合に学習者がなかなか自由に会話の内容を展開させにくかったり、そもそもどのような会話を行えばよいのかが分かっていない、という場面にも遭遇することとなってしまった。また、意向形を単に指導するというだけでなく、前日の授業との関連で例えば non-polite な会話において意向形を使用する、使用できるような練習も考え、実践すべきであったが、それができな

かった。

一回目、二回目に共通する反省点として、まず、自身では文法項目の指導という点のみを考えていたわけではないにも関わらずそれが授業に反映させられなかったという点が挙げられる。次に、練習内容についても易から難へ、という流れを設定し、学習者が無理なく指導項目を習得できるような構成を考え、実際の授業でもその構成はある程度予想通りに進み、時間配分も予定とほぼ同一の状況で進んだものの、これは教師主導の授業を実行したに過ぎないという側面もあり、学習者が運用能力を向上させられる、という本来の目的を意識する程度が低く、さらにその目的を授業に十分に反映させられなかったという点が挙げられる。

今後、学習者が運用能力（コミュニケーション能力）を高められるような授業を行うためには、具体的にどのような授業の流れを作ればよいか、練習にどのようなバリエーションを盛り込むべきか、という点について考え、そのための（ある文法項目に関する）詳細な文脈分析を行っていく必要があると感じた。そして、それ以上に、チームティーチングの意義や学習者中心の授業のあり方をはじめとして、そもそも教師としての意識について改めて考え直し、教師という立場に対するモチベーションを上げていかなければ、今回の春季実習を通して見出した反省点を根本的に改善していくことはできないであろうと痛感した。

（春季実習を終了した時点で、以上の反省点を一過性のものとせず、今後も常に意識し、日本語教育について実践的に考え、取り組めるような姿勢を養っていきたいと考え、また、この反省点を少しでも改善すべく、半年後の夏季実習に臨んだ。）

実習生氏名：ディルルクシ・ラトナーヤカ

実習日：２月 19 日　（月）
〈授業内容：14 課〉 **学習項目：　「～ことになります」「～ことにします」** **授業構成：** **導入①：「～ことになりました」には様々な用法はあるが、この授業では、教科書の内容を基に、スケジュールについて特に、自分のスケジュールではあるが、自分が決めずに他の人(先生、事務)に決められた場合に用いられる文法項目として導入した。** **練習 1：カレンダーにスケジュールを単語レベルで書いたものを示し、学習者に「～ことになりました」の文法項目を用いた文を作ってもらった。この練習はまず、先生対学習者全員、次に、先生対学習者一人というように行った。** **練習 2：「～ことになりました」の文法項目を用い、学習者一人一人のスケジュールを話してもらった。** **導入②：「～なっています」の項目も続いて導入した。ここでの用法としては、ある場所、国、町などの一般的に知られているルールの表現し方として「～なっています」を導入した。** **練習 1：絵カードで場面を与え(道、病院などの)、その場面でのルールになるヒントをも提案した。それから、「～ことになっています」の文法項目を用いて、そのルールを言わせた。** **反省点：予定時間より早く終わった。思っていたより授業がスムーズにできたが、学習者がすでに多少習っていた項目だったため、もっと学習者の発話ができるような練習をすればよかった。学習者のレベルと学んだ項目についての認識が不十分だったため、導入や基本練習に手間をかけてしまい、応用練習を考慮しなかった。授業の前に学習者のレベルや、学習者が既に有している日本語能力の程度について充分検討する必要があったと思われる。**
実習日：２月 22 日（木）
〈授業内容：17 課〉 **学習項目：「～てあげる」**

授業構成：

導入：人が困っている場面を表す絵を用いて、そのような場面において、自分が困った人に「何をしてあげるか」を推定するといった形で、導入した。つまり、何らかの理由で自分自身では成り立たない行為を手伝うといった場面では、「～てあげます」を用いることを示した。

練習①：絵カードを用いて、場面を提出し、その場面で、どのようなことを手伝うかを学習者に考えてもらった。(雨が降っているが、傘を持っていない人、病気になった友達など)目的としては「～てあげます」を用いる場面をしっかり覚えさせることだった。

練習②：文字化した場面を与え、そのような場面において自分がどのようなことをして手伝うかを考えてもらった。「例、友達は大学に電話したいです。電話番号が分かりません。どうしますか？」

練習③：口頭で、教師が場面を与え、その場面でどのように困っている人を助けるかを言ってもらった。この練習は教師対学習者一人といった形で行った。

練習④：文字化した会話プリントを渡し、まず、穴埋めをしてもらった。穴埋めのところには、段階的に学習してきた「～てくれました」「～てもらいました」「～てあげました」のどれかを選択することになっていた。その目的は、学習した項目を使い分けて使用できるかどうかをみることだった。

反省点：「～てあげる」の使用場面についての理解が不十分だった。授業は全体的に「～てあげます」の形式だけを練習したことは失敗だったと反省している。つまり、「～てあげました」のような日常生活で最も使用頻度が高い形式を選択して練習するべきだった。

また、「～てあげます」が使用できるのは、自分より下の人、子供にだけだったため、ほとんど子供の絵であった。そこで、この形式が子供に使うものだといった勘違いも起こしやすかった。

実習生氏名：初恵珠

実習日：２月19日（月）
〈授業内容：CMJ１４課〉 学習項目：　「～てしまう」 授業構成：　１）「～てしまう」（Finish）の導入 「昨日何をしましたか」をテーマに ２）「V＋～てしまう」の形の練習 ３）会話練習 学習者に単語が書いてある紙を渡し、「～てしまう」の形を使って文を作ってもらった。 ４）「～てしまう」（Unintentional Action）の導入 ５）ロールプレイ 「電車に忘れ物しました」というトピックであった。 ６）「ちゃう」「じゃう」の形の練習
実習日：２月22日（木）
〈授業内容：CMJ１７課〉 学習項目：１）Informal Speech（「行かない？」「行こう」） ２）Contracted Form（「ちゃ」「じゃ」「とく」） 授業構成：１）「行かない？」「行こう」の導入 ２）「行かない」「行こう」の会話練習 「友達を誘う」という会話練習であった。 ３）「ちゃ」「じゃ」の導入 ４）「ちゃ」「じゃ」の会話練習 「しちゃいけません」「しなくちゃいけません」を使い、学習者の国の習慣について話してもらった。 ５）「とく」の導入 ６）「とく」の会話練習 「先生は海外旅行がしたいです。何をしといたほうがいいですか。」と学習者に質問し、「XXをしといたほうがいいです。」と答えてもらった。
〈授業の反省〉 １）「～てしまう」 ロールプレイ練習のとき、隣同士でペアになってもらったので、活発なペアと静かなペアがあったが、全体的には問題なく良くできた。グループ分けのとき、隣同士でも

いいが、時には性格や能力なども考えたほうが良い。全体的には、学習者が勉強したことの復習をする授業であった。

２）Informal Speech（「行かない？」「行こう」）と Contracted Form（「ちゃ」「じゃ」「とく」）

「行かない？」「行こう」の会話練習のとき、学習者は「友達を誘う」という会話練習にはもう慣れているようで、予想よりいろいろな内容が出た。また、「ちゃ」「じゃ」と「とく」の導入のとき、２人の学習者にレベルの差が見られた。すぐ分かった学習者が、まだわかっていない学習者に説明し、学習者間の信頼関係が見られた。

「縮約形」は、人によって目上の人に使ってもいいと使ってはいけないという意見があった。境界線がはっきりしないので、学習者にどこまで教えればいいのか困難を感じた。結局、授業で学習者に聞かれない限り提出しないと決めたが、それは学習者にとっていいかどうかは疑問に残っている。

３）授業全体

教案は自分の授業のため、自分が見るものだと分かっているが、最初はどうしても TA を読み手と想定し書いたので、なかなか進まなかった。また、実習をし、改めて日本語教師として日本語についての知識が重要だと思った。そして自分にはそれが足りないということに気づいた。例えば、「しちまう」という言い方もよく耳にするが、それは方言なのか何なのか深く考えたことはなかった。教師として正しく教える責任があることを実感した。

第４章　まとめ

春季実習において、実習生は様々な視点から多様な気付きを得ることができた。日本語教師の仕事を経験したことがある人もいれば、経験したことがない人もいる。また、日本語教師の仕事を経験したことはないが、自分の母国語を日本人に教える仕事を経験したことがある非母語話者の実習生が少なくない。今回の春季日本語教育実習を通して、各実習生にとって非常にいい体験になり、得たものが数え切れないほど多くあった。今後の日本語教師としての仕事に非常に役立つと実感した。

今回の学習者にとって、実習で扱う学習内容はすべて既習の項目であった。それにもかかわらず、学習者が熱心に取り組んでくださり、実習生にとっては大変恵まれた状況下での実習となった。途中で参加しなくなり、ある時期にクラスの参加人数が激減したこともあったが、最後まで積極的に参加してくださった受講生が多数であった。各実習生にとっては大変嬉しいものとなった。

各実習生は、TA の授業をはじめ、他の実習生の授業を見学する機会を通して、多くのことを学べた。そして、日本語の授業だからといって、教師が日本語を教えるだけで十分だということではなく、授業内容をどのように工夫すれば学習者の積極的な参加態度を引き出すことができるか、教師としてクラス内でどのように管理すべきかなど、様々なことを改めて実践的に学ぶことができた。さらに、学習者の個人差、学習者の文化（異文化）、学習者との接触のし方なども授業を運営する時には考えなければならない課題であることも強く実感できた。

また、実習生 3 名につき、1 名の TA が授業の指導をはじめ、様々なことについて親切に相談に乗ってくださった。そのため、実習生全員が安心して授業に取り組むことができた。自分の研究がお忙しい中での、実習生への熱心な指導やアドバイスは各実習生にとっての自信に繋がった。また、鷲見先生が実習生の授業を見に来てくださり、よいところをはじめ、今後の授業への改善すべき課題、授業内容、授業の雰囲気などを細かいところまでアドバイスしてくださった。

春季実習実施に際してご協力いただいた名古屋大学留学生センターの先生方、実習生に寛容な態度で接してくださった学習者の皆様、実習生の不安を和らげて自信に繋げてくださった、相談に乗ってくださった TA の皆様、また、お忙しい中、各実習生の授業を見学してくださり、丁寧なご指導をいただいた、名古屋大学大学院准教授の鷲見幸美先生にこの場を借りて感謝の意を表すとともに心よりお礼を申し上げます。

（担当：サウェットアイヤラム・テーウィット）